



学校法人愛知学院 学院長／愛知学院大学 学長 小出忠孝
取材・文／堀水潤 撮影／岡田和男

15万坪のキャンパスで 伸び伸びと過ごし、 豊かな人間性を培って

【学院長・学長プロフィール】1931年生まれ。名古屋大学医学部卒業後、同大学第3内科入局。学校法人愛知学院理事、愛知学院大学歯学部教授、同大学副学長を経て、88年より現職。日本私立大学協会副会長など役職多数。医学博士。

【大学プロフィール】1953年創立。文、心身科学、商、経営、法、総合政策、薬、歯学部の8学部17学科体制。大学院8研究科、短期大学部（歯科衛生学科）。ほかに中学、高校、歯科技工専門学校などを擁する総合学園。学生・生徒数14,500人

曹洞宗専門学校支校として1876年に創立された本学園が大学を設置したのは1953年。当初は商学部だけの小さな大学でしたが、今や8学部17学科、大学院、短大を合わせて1万2000人もの学生が集う、地区でも最大級の規模を誇る学園となっています。

学部構成は、中心となる文科系学部と歯学部や薬学部などの医療系の学部からなります。総合大学として理数系学部の設立を要望する声も少なくありませんが、社会の負託に応えながら改組改革を続けてきた既存の学部を、さらに充実させることを第一と考えています。

例えば、それまで文学部にあった心理学科は2003年に改組し、心身科学部心理学科としました。「心身科学」という耳なれない学部名をつけたのは、心だけではなく身体も扱う医療系の学部を目指したからです。心理と医療では、分野も教員のタイプも異なるものですが、「心身両面がマッチして初めて真の健康といえる」という現場の声を重視しその統合を強調しました。

同学部は、臨床心理を中心とした心理学科で始まりましたが、翌04年に、健康づくりの指導者などを育成する健康科学科を、08年に管理栄養士を養成

する健康栄養学科を設置したことで、健康を心・身体・食の三位一体で捉える体制が整ったことになりました。

その心身科学部を含め、歯・薬学部以外の学生が学ぶのが、15万坪という広大な敷地を有する日進キャンパスです。キャンパスを覆う木々や巨大な駐車場はアメリカの大学を念頭においたもの。多感な数年間を、こうした環境で伸び伸びと過ごすことは、都心のビルにこもって勉強することに比べ、ずっと豊かな人間性が培われることと思います。

本学は「行学一体」「報恩感謝」を建学の精神とし、仏教の基本である「慈悲」と「智慧」を重んじています。これは、他人を思いやる心と、豊かな知識をもとに物事を正しく判断し処理する力のこと。すなわち本学では、学業と人間形成とを教育の両輪として重視しているわけです。洗練されたイメージが強い「学院つ子」ですが、就職先の担当者から、人柄がよく協調性も高いという評価をいただくのも、そうした精神が影響しているのでしょう。

必ずしも優等生でなくて構いません。けれどまじめで前向きでやる気のあふれる学生に来てほしいと思っています。まじめな若者に応えられるまじめな大学であることは確かです。